



BベEテLルH通E信

2026年4月号（第273号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 Tel089-925-5000
ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>

新年度に向けて



4月から医局長の仕事を抑せつかりました大西です。宜しくお願ひします。私は、2000年からベテル病院にお世話になっていますが、もう四半世紀も過ぎてしまいました。

その間に、ベテル病院も随分変わりました。私が来た時期に、ホスピス病棟が立ち上がり、介護保険が導入される時期でもありました。30周年を経て、その後、建物の増改築もありました。その際に、保育園横の杏子の木がなくなったのは残念でした。

今年の2月からは、電子カルテシステムが導入されています。たくさんの人たちの尽力のたまものであり、感謝しております。日々、悪戦苦闘の

最中ですが、業務によっては、かなり効率的になっています。ただ、朝ナースステーションに入ったときに、皆がそろってパソコンに向かう様子を見るときには、妙に感じてしまうこともあります。

医療全体についても大きく変化しています。今は、インフルエンザをコロナを含めて簡易キットで診断するのは当たり前ですし、薬もどんどん新しいものが開発されて、まただんだん使われなくなった薬もあります。治療法も変わってきており、日々アップデートが必要です。医療システムの的にも、いろいろなチーム(栄養サポートチーム、認知症サポートチーム、褥瘡チーム、嚥下チーム等)が組織され、また、多職種が集ってのチーム医療の重要性が増してきました。

多職種とは、医師・看護師・介護士・リハビリスタッフ・薬剤師・放射線技師・臨床検査技師・社会福祉士・事務系の方々です。(外部の人を含めなさいという意見もありましたが・・・) 看護・介護スタッフは患者さまに寄り添う最前線であり、リハビリスタッフにはリハビリを進めてもらうのはもちろん、患者さまの状態変化を教えてもらうこともあります。薬剤師には投薬の相談にのってもらい、放射線技師には読影を協力してもらったりしています。検査技師には、いち早く異常を知らせてもらい、社会福祉士とは常に連携をとって、患者さまができるだけ早く適切な場所に移れるように尽力してもらっています。患者さまとその家族の方々にも協力をいただいています。そうすることで、患者さまの満足度が上がることを目指しています。

今後も、より一層多職種間の連携が深まるようなお手伝いができるばうれしく思います。



※写真 七折にて 2026.2.23



二枚貝にも足がある

随分と暖かくなり、春を感じるようになりましたね。喜ばしいことが色々ある季節ですが、花粉症に日々悩まされている私としては、正直なところ、早くこの時期が過ぎないかな…と願うばかりです。

さて、前々回から二枚貝の話ばかりしてきていますが、このまま続けていきますね。元々一枚だった殻を進化の中で曲げて二枚にしたらしい、という内容について前々回にお伝えしましたが、その過程で住む場所も変えてきたようです。殻一枚時代には、足を使って岩の上などをゆっくりと移動していたものが、殻が二枚になると砂泥地に潜って生活するようになりました。といっても、全く動かずにじっとしているわけではありません。調べてみると、これまた足（と呼ばれていますが、どう見ても殻の隙間から出てくる舌、という形）を器用に使って移動したり、砂泥の中に潜ったりしているそうです。今時なのでインターネットで調べてみると、そんな様子を動画で色々観ることができますよ（余談ですが、その中にTBSの『どうぶつ奇想天外！』という番組も出てきました…懐かしいですね）。なお、この足が斧のような形をしているということで、二枚貝は斧足類（ふそくるい）とも呼ばれています。

そして、そのように移動もしつつ、ちょうど良い深さの所で自身を固定するものもいるそうです。その時に使うのが足糸そくしと呼ばれる糸です。特殊なコラーゲンでできている弾性もある丈夫な糸で、これを岩などに何本も貼り付けて本体が引っ張り続けることで、しっかり固定する。この足糸を引っ張っている筋肉が、前回にもお伝えしたキャッチ筋だそうです。少ないエネルギーで大きな力を維持できるこの筋肉を使い、何ヶ月も同じ所に体を安定させているということです。すごいですねえ。

さて、お伝えしたいことはまだまだあるのですが、もうスペースもありませんのでこの辺りにしておきます。前々回から今回にかけて書かせていただいた、二枚貝についての内容のほとんどは、本川達雄著「ウニはすごい バッタもすごい デザインの生物学」（2017年、中公新書）より引用させていただきました。身の回りの生き物の面白いお話が数多くありますので、興味のある方は是非読んでみてください。

（ホスピス医 松井 貴司）



皆様は、“社会福祉士”という職業をご存じですか？
 当院の医療相談室には社会福祉士という国家資格を持つ職員
 がいます。
 今回は“社会福祉士”についてご紹介します。

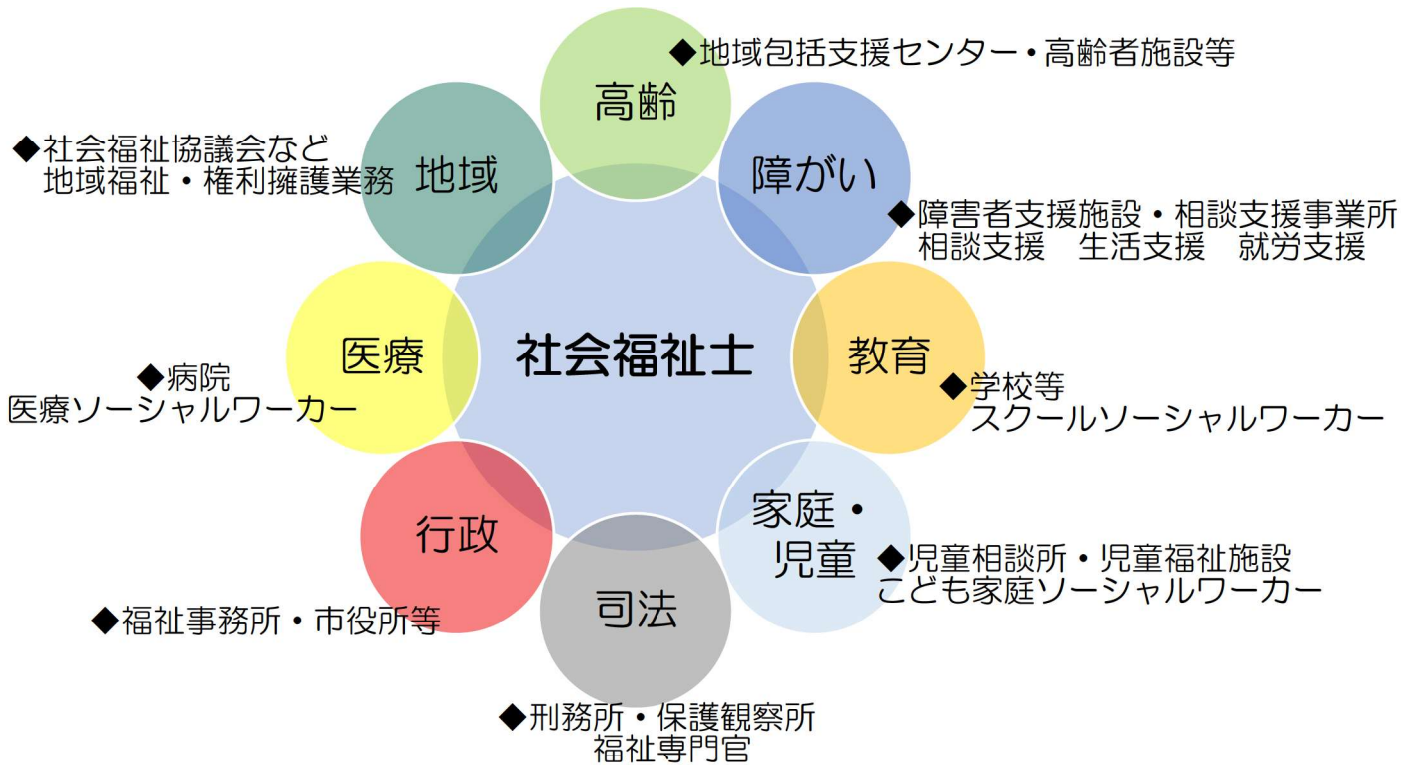
〈社会福祉士とは〉

社会福祉士は、昭和 62 年 5 月の第 108 回国会において制定された「社会福祉士及び介護福祉士法」で位置づけられた、社会福祉業務に携わる人の国家資格です。

「社会福祉士及び介護福祉士法」には、社会福祉士とは「専門的知識及び技術をもって、身体上もしくは精神上の障害があること、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連携及び調整その他の援助を行うことを業とする者」とされています。社会福祉士の資格をもって働く人のことを「ソーシャルワーカー」とも呼びます。

社会福祉士は、福祉・医療・教育・司法など多岐にわたる分野で活動し、生活に課題を抱える人々を支援する専門職です。主な業務には相談支援業務があります。ご本人やご家族との相談を通じて生活課題の把握を行い、介護保険・障害福祉サービス・生活保護などの適切な制度が利用できるよう情報提供を行ったり関係機関と連携を図ったりしています。いわば、人と社会をつなぐ架け橋のような役割を担い、その人らしい生活を支える専門職といえます。

〈社会福祉士が活躍する主な分野〉



次回（5月号）では、医療分野で働く医療ソーシャルワーカーについてご紹介します。
 「医療相談室・地域医療連携室」では関係機関との連携を取り相談をつないでいます。
 お気軽にご相談下さい。

<参考資料：公益社団法人 日本社会福祉士会、一般社団法人 徳島県社会福祉士会 各ホームページより>
 （医療相談室 社会福祉士 弓達 尚子）

外来診療日のお知らせ



◎ 豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）

4月1日（水）、4月15日（水）

◎ 4月より毎週木曜日 山西 祐輝 医師の神経内科診察が始まります。

◎ 4月の休診（3月23日現在）

4月7日（火）・4月14日（火）・4月21日（火）森 洋二 医師（脳神経外科）

松山ベテル病院では、接遇目標・医療安全推進目標をかかげています

4月接遇目標

二〇二六年 四月の接遇目標

接遇の5原則

①挨拶 ②笑顔 ③態度
④身だしなみ ⑤言葉遣い

意識しましょう

記念委員会
接遇推進委員会

接遇委員会

3・4月 医療安全推進目標

画面越し
見逃すサインは
目の前に

3・4月医療安全推進目標

医療安全委員会

新人紹介

おかもと みか
岡本 美香

配属部署：3階東病棟

職 種：看護師

抱 負：一日も早く仕事を覚え、患者さまに安心していただける看護ができるよう努めます。よろしくお願いいたします。



たまい ゆい
玉井 優衣

配属部署：リハビリテーション課

職 種：作業療法士

抱 負：新しい環境に早く馴染み、チームに貢献できるように尽力いたします。



ベテル旬会

春空に
ほかりと
雲の峰
(宮崎 史江)

今日もまた
手厚い介護
かんわケア
(東245号ア
トシ)

天仰ぎ
顔で受け取る
雪使り
(越智 宏)

- ・投句箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
- ・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・掲載中の写真についてはご本人、ご家族の許可を得ています。

発行日 2026年3月23日